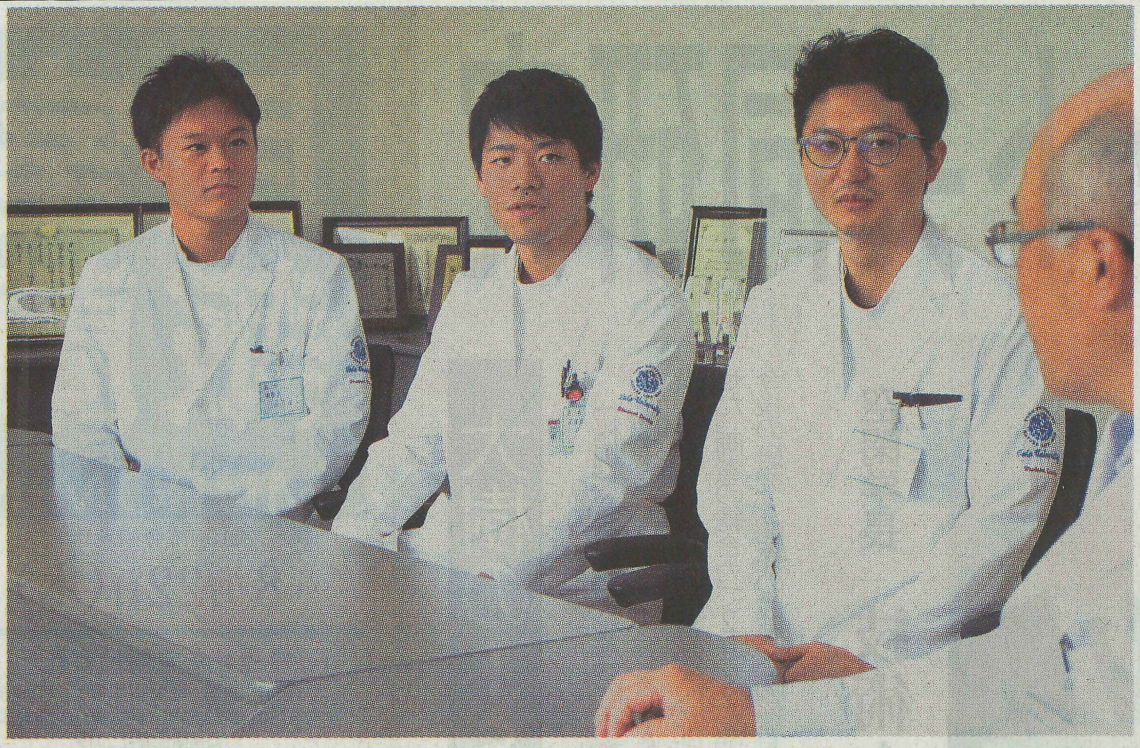

千葉院長（右端）から地域医療の在り方について学ぶ（左から）山川さん、甲斐さん、岡田さん

寄り添う医療 肌で

東邦大医学生、三愛病院で実習

東邦大学医学部（東京）の学生3人が20日から、登別市中登別町の三愛病院（千葉泰二院長）で実習に臨んでいる。地域医療を支える最前線を回り、面談や診察、施設訪問などを通じて、高齢者や患者に寄り添うサポート方法を学んでいる。

（石川昌希）

同大は5年生を対象に地域医療実習を行っている。地域医療の重要性を学び、医療機関と大学病院との連携を再確認することを目的に、学生が地方に出向き地域医療の実態を学んでいる。千葉院長が同大出身であることから、2012年（平成24年）から学生を受け入れている。

今回訪れているのは、山川海人さん(23)、甲斐秀毅さん(22)、岡田伯未さん(33)＝いずれも東京都出身。

山川さんは元々薬学部志望だったが、浪人時代に先輩から医学部を薦められたのを機に進学。「親戚が長崎県の島しょにいるので、地方の医療に興味がありました」と明るい。父親が開業医、母親も元医師という甲斐さんは「実習先で最も遠い場所が、北海道と島根県だった。地方の医療充実に貢献できるよう頑張りたい」と意欲的だ。精神科医療に興味があったという岡田さんは、建築設計の企業に勤めた後、父や兄、姉の後を追うように医師の道へと進んだ。「フェリーに乗って室蘭、苫小牧に行ったことがあります。中間の登別にも来てみたかったです」

実習では、老健施設の見学や病棟での診察、患者面談など、先輩医師らにアドバイスをもらいながら研さんを積んでいる。実習は23日午前まで。翌24日には大学で実習成果を発表する。26日からは大学病院で再び実習に入るスケジュールだ。

千葉院長は「大学病院は急性期医療が中心。慢性期医療を学ぶことで、在宅を含めた地域医療、福祉の実態を把握することができる。頑張ってください」と3人に呼び掛けた。